

作成日 2010年6月15日

改訂日 2016年5月11日

## 安全データシート

製品名 ウィンドウ撥水システム 12 撥水剤

### 1. 製品及び会社情報

製品名	: ウィンドウ撥水システム 12 撥水剤
製品コード	:
会社名	: 中央自動車工業株式会社
住所	: 大阪市北区中之島 4 丁目 2 番 30 号
担当部門	: 商品開発部
電話番号	: 06-6443-5846
FAX 番号	: 06-6445-8573
整理番号	: 9001-3

### 2. 危険有害性の要約

GHS分類	: 引火性液体	区分 2
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 2
	生殖毒性	区分 2
	特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)	区分 1 (中枢神経系・全身毒性)
		区分 3 (気道刺激性)
	特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)	区分 1 (血液系)
		区分 2 (呼吸器・肝臓・脾臓)

#### GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: 引火性の高い液体及び蒸気。

強い眼刺激。

生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い。

中枢神経系、全身毒性の障害。

呼吸器への刺激のおそれ。

長期または反復暴露による血液系の障害

長期または反復暴露による呼吸器、肝臓、脾臓の障害のおそれ。

## 注意書き

## :【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。

—禁煙

容器を密閉しておくこと。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は手をよく洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

## 【応急措置】

皮膚(または髪)に付着した場合:直ちにすべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師に連絡すること。

眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断を受けること。

暴露または暴露の懸念がある場合:医師の診断を受けること。

火災の場合には適切な消火方法をとること。

## 【保管】

容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。

## 【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

## 3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

:混合物

含有成分及び含有量

物質名	含有量 (%)	毒劇法 No.	安衛法 No.	化管法 No.	CAS No.
イソプロピルアルコール	96~97	非該当	494	非該当	67-63-0
フッ素系シラン化合物	1~5	非該当	非該当	非該当	非公開
シリカ化合物	0.5 以下	非該当	312	非該当	7631-86-9

---

#### 4. 応急措置

吸入した場合	: 新鮮な空気のある場所に移動させ、安静、保温に務める。気分が回復しない場合は、医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	: 付着した部分を多量の水で十分に洗う。異常があれば医師の診断を受ける。
目に入った場合	: 清浄な流水で十分に洗眼した後、医師の診断を受ける。 コンタクトレンズを着用し、容易に取れる場合は、コンタクトレンズをはずして洗眼する。
飲み込んだ場合	: 水でよく口の中を洗浄し、医師の診断を受ける。

---

#### 5. 火災時の措置

消火剤	: 小規模火災には、散水、二酸化炭素、粉末、耐アルコール性泡 大規模火災には、散水、噴霧水、耐アルコール性泡
使ってはならない消火剤	: 棒状注水
特有の消火方法	: 散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を使用する。 移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も多量の水を用いて、十分に容器を冷却する。
消火を行う物の保護	: 皮膚、目、呼吸器を保護する適切な保護具を着用する。

---

#### 6. 漏出時の措置

- ・ 屋内で漏出した場合は、窓、ドアを開けて十分に換気を行う。
- ・ 作業の際、皮膚、目、呼吸器を保護する適切な保護具を着用する。
- ・ 洗浄した水等は地面や排水溝にそのまま流さない。
- ・ 下水等に入り込まないように注意する。
- ・ 火花が発生しないように、プラスチック製等の容器に回収する。
- ・ 付近の着火源となるものや高温帯及び付近の可燃物を速やかに取り除く。
- ・ 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
- ・ 廃棄物は、関連法規等に基づいて処理する。

---

#### 7. 取扱い及び保管上の注意

##### 取扱い

##### 技術的対策

- : 換気の良い場所で使用する。
- 皮膚、目、呼吸器を保護する適切な保護具を着用する。
- 周辺での火気、スパーク、高温物の使用は避ける。
- 取扱い後は、手洗い、うがい、洗顔を十分に行い、作業衣等に付着した場合は着替える。

##### 保管

9001-3

ウィンドウ撥水システム 12 撥水剤, 中央自動車工業株式会社, 2016/5/11, 4/6

適切な保管条件

: 容器は密栓し、直射日光の当たる所や高温 (40℃以上) になる所、湿気の多い所を避け、風通しの良い冷暗所に保管する。  
周辺での火気、スパーク、高温物との接触する場所を避ける。

## 8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

: 屋内は全体に換気する。  
換気の悪い場所及び蒸気の発生が多い場所には局所排気装置を設ける。

管理濃度

: 200ppm (イソプロピルアルコール)

許容濃度

日本産業衛生学会 (2009 年度版)

: 400ppm (イソプロピルアルコール)

ACGIH (2007 年度版)

: TLV-TWA ; 200ppm, TLV-STEL ; 400ppm (イソプロピルアルコール)

保護具

呼吸器の保護具

: 有機ガス用防毒マスク

手の保護具

: 保護手袋

目の保護具

: 保護眼鏡

## 9. 物理的及び化学的性質

外観

: 乳白色液体

臭い

: 特異の溶剤臭

pH

: データなし

融点/凝固点

: データなし

沸点、初留点と沸騰範囲

: 78.5℃

引火点

: 13.0℃

発火点

: データなし

燃焼、又は爆発範囲

: データなし

蒸気圧

: データなし

蒸気密度

: データなし

比重

: 0.79 (20℃)

溶解性

: 水に可溶

オクタノール/水分配係数

: データなし

分解温度

: データなし

## 10. 安定性及び反応性

安定性

: 通常 of 取扱い条件において安定

危険有害反応可能性

: 強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険性をもたらす。

避けるべき条件

: 高温。

混触危険物質

: 強酸化剤、強アルカリ。

危険有害な分解生成物

: 火災時の燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素などの有害ガスが発生する。

## 1 1. 有害性情報

### <イソプロピルアルコールとして>

- 眼に対する重篤な損傷・刺激性 : ウサギでの眼刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるとの記述があるが、重篤な損傷性は記載されていないことから、区分 2 とした。
- 生殖毒性 : ラットの経口投与による 2 世代試験では生殖発生毒性は認められなかったとの記述があるが、このデータの詳細は明らかではない。比較的新しいラットの経口投与による 2 世代試験では親動物に一般毒性影響(肝臓及び腎臓の組織変化を伴う重量増加)が認められる用量で、雄親動物に交尾率の低下、児動物には生後に体重の低値及び死亡率の増加が見られたと記述されている。雄親動物における交尾率の低下と新生児への有害影響は、親動物への一般毒性による二次的・非特異的な影響とは考えがたい。また、妊娠雌ラットに経口投与した発生毒性試験において、胎児には軽微な影響(体重低値、骨格変異)が見られたのみで、奇形の発生はなかったが、母動物毒性(不安定歩行、嗜眠、摂餌量及び体重増加量減少)がみられる用量で着床不全、全胚吸収など生殖毒性影響がみられている。以上の結果、分類ガイドンスに従い区分 2 に分類した。
- 特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露) : 本物質はヒトで急性中毒として中枢神経抑制(嗜眠、昏睡、呼吸抑制など)、消化管への刺激性(吐き気、嘔吐)、血圧、体温低下、不整脈など循環器系への影響を含み、全身的に有害影響を生じる。また、吸入ばく露により鼻、喉への刺激性(咳、咽頭痛)を示すことから、気道刺激性を有する。以上より、区分 1 (中枢神経系、全身毒性)、及び区分 3 (気道刺激性) に分類した。
- 特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露) : ラットに本物質の蒸気を 4 ヶ月間吸入ばく露試験で、100 mg/m<sup>3</sup> (ガイドンス値換算濃度: 0.067 mg/L/6 hr) 以上で白血球数の減少が見られ、500 mg/m<sup>3</sup> (ガイドンス値換算濃度: 0.33 mg/L/6 hr) 群では呼吸器(肺、気管支)、肝臓、脾臓に病理学的な影響が認められたとの記述から、標的臓器は血液系、呼吸器、肝臓、脾臓であると判断し、血液は区分 1、呼吸器、肝臓、脾臓は区分 2 とした。

## 1 2. 環境影響情報

現在までのところ有用な情報なし

## 1 3. 廃棄上の注意

- ・許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して廃棄する。

・その他関連法規の定めるところに従う。

#### 1 4. 輸送上の注意

##### 国際規制

国連分類	: クラス 3 (引火性液体)
国連番号	: 1219
品名 (国連輸送名)	: イソプロピルアルコール, 溶液
容器等級	: II
海洋汚染物質 (該当/非該当)	: 非該当

##### 国内規制

陸上輸送	: 消防法の定めるところに従う。
海上/航空輸送	: 船舶安全法、航空法の定めるところに従う。
輸送の特定の安全対策及び条件	: “取扱い及び保管上の注意” の項の一般的注意に従う。 容器は漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 引火性液体なので「火気厳禁」。 容器は温度上昇を抑制するものである必要がある。
緊急時応急措置指針番号	: 指針番号 129

#### 1 5. 適用法令

消防法	: 危険物 第四類 アルコール類 危険等級 II
毒物及び劇物取締り法	: 非該当
労働安全衛生法	: 表示対象物質 (イソプロピルアルコール) SDS 通知対象物質 (イソプロピルアルコール、シリカ)
船舶安全法	: 引火性液体類
航空法	: 引火性液体
化学物質排出把握管理促進法	: 非該当

#### 1 6. その他の情報

1. 配合原料メーカー発行の安全データシート
2. 安全データシートの作成指針改訂 2 版 (社団法人日本化学工業協会)
3. 各関連法規
4. 安衛法通知対象物質についてのモデル SDS 情報 (安全衛生情報センター)

安全データシートは、危険有害な化学製品について安全な取扱いを確保するための参考情報として取扱う事業者提供されるものです。

混合物である製品の危険・有害性情報は、個々の原材料の危険・有害性情報から推定したものです。

取扱う事業者は、これを参考として自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようにお願いします。

従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。